

ポイント

- ◆ 売上高対前年同期比は全産業で前期比変わらず-10.1ポイント
製造・卸売業を除く全3業種で上昇
- ◆ 採算性対前年同期比は全産業で6.5ポイント悪化
特に、製造業・小売業での悪化が目立つ
- ◆ 材料、原材料、仕入単価の上昇が建設、製造、卸売で経営課題のトップ
引き続き需要の停滞もサービス業を除く4業種で上位にあげられる

□全産業で前期比変わらずも今後は原材料価格の高騰や需要停滞など懸念される

売上高対前年同期比(全産業)は、-10.1と前回調査(-10.1)から変わらず(表1)。産業別でみると、建設・小売業の産業が上昇となっており、特に小売業(35.9ポイント上昇)で大きく改善した。また、製造業で-14.7ポイント、卸売業で-9.1ポイントの減少となった。

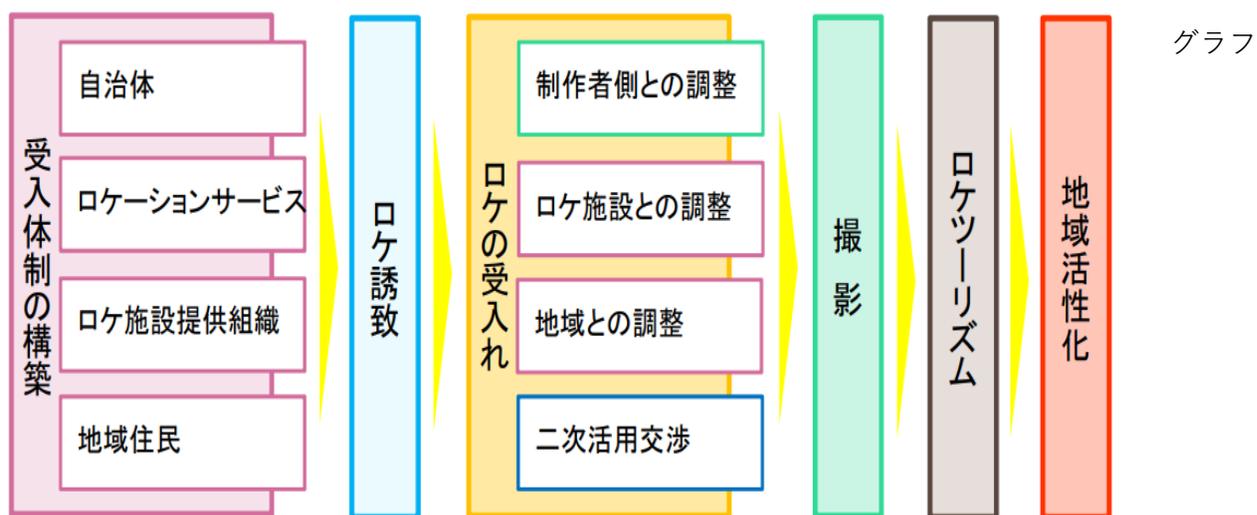
来期の売上高見通し(グラフ2-2)は、減少との回答が0.3ポイント上昇した。増加・不変の合計が64.0%となり、前回調査から0.1ポイント減少したものの、来期見通しに前向きな経営者は多いことが伺える。

採算性(表3)は全産業で-38.5となり前回調査から6.5ポイント減少した。建設・サービス業で改善がみられる一方、その他の業種では悪化した。

従業員水準(グラフ5 表5)は全産業で、6期連続不足傾向(0を下回る)となった。前回調査では、卸売業で改善(0.0)がみられたものの、今回調査では、卸売業(-7.4)を含む全業種で、不足傾向となった。

直面する経営課題では、材料、原材料、仕入単価の上昇が建設、製造、卸売でトップとなったほか、引き続き需要の停滞もサービス業を除く4業種で上位にあげられる。

アフターコロナ時代における地域経済の活性化策のひとつとしてロケツーリズム(グラフA)がある。富山県では富山県ロケーションオフィスが映画などの撮影の誘致に取り組んでおり、ロケーションサービスの協力施設の紹介やエキストラの募集などを行っている。また、SNSなどで、ロケ地としての本県の魅力を積極的にPRしている。ロケツーリズムに関連する経済効果として①ロケスタッフ・出演者の宿泊や食事などの消費活動、②ロケ地を訪れた方の食事やお土産購入などの消費活動、③メディアなどへの露出を広告宣伝費に換算した効果が期待される。横浜銀行や鎌倉市観光協会などによれば、今年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に関連する神奈川県内への経済波及効果が約307億円に上ると試算されており、地域経済への影響は大きい。アフターコロナ時代における地域経済の活性化策としてロケツーリズムも活用策のひとつと考えられる。



出典：ロケツーリズムによる地域振興マニュアル(ロケツーリズム連絡会、跡見学園女子)

高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和4年度 第1四半期・令和4年4月～令和4年6月)

調査月 令和4年4月～令和4年6月 (基準日6月1日)

対象 高岡市内事業所 332社

回答数 149社 (回収率 44.9%)

回答業種内訳及び構成比

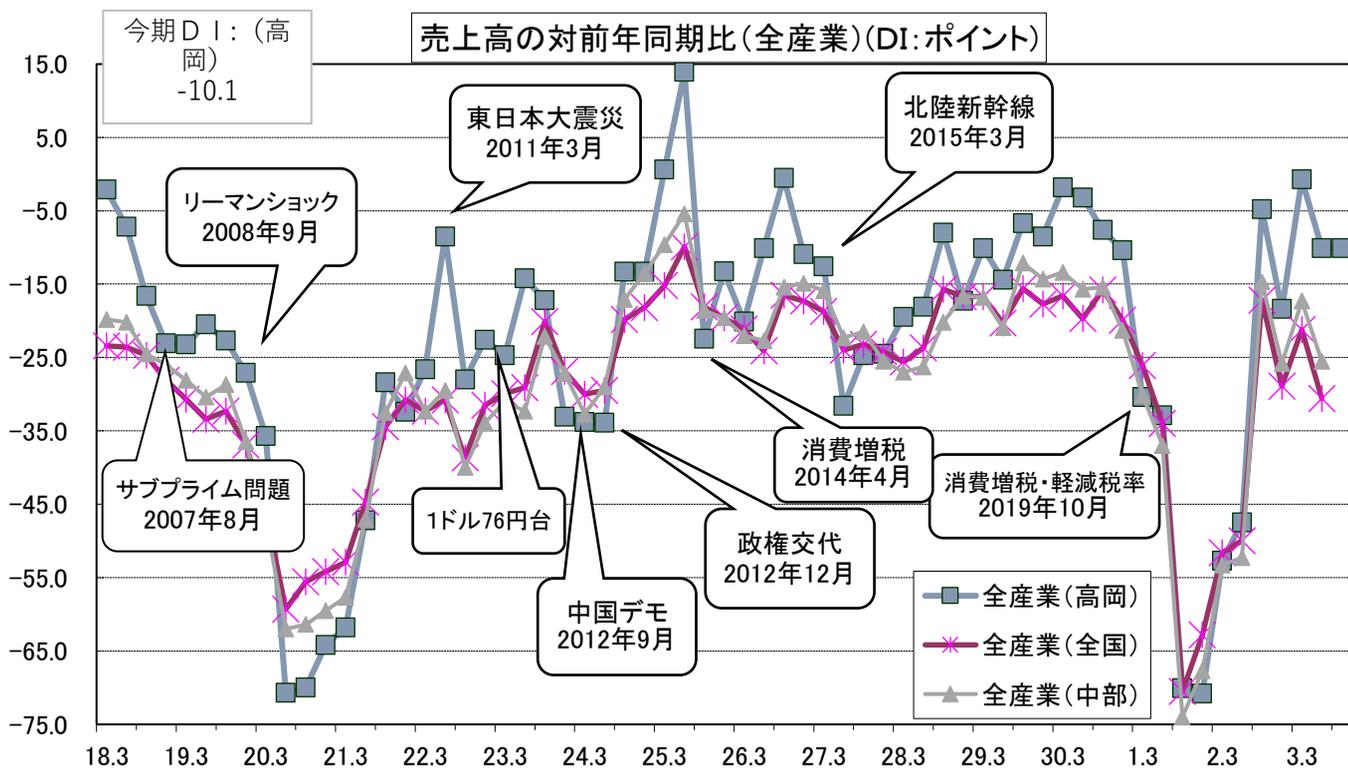
	建設	製造	卸売	小売	サービス	全体
回答数	17社	68社	27社	16社	21社	149社
%	11.4%	45.6%	18.1%	10.7%	14.1%	100.0%

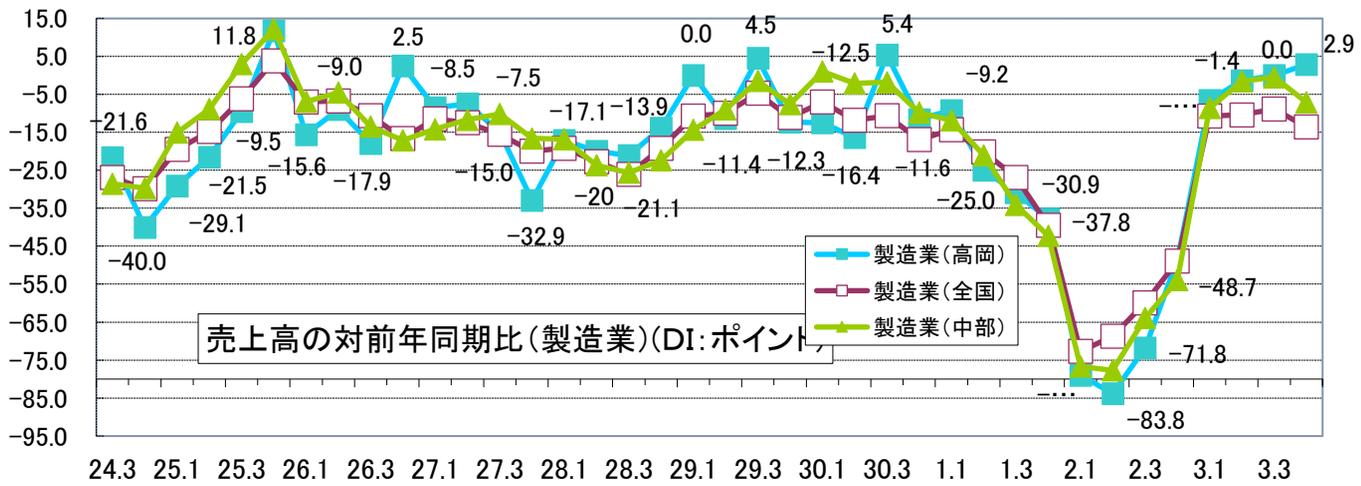
■ 1. 売上高の対前年同期比

(%) (ポイント)

※全国、中部DIは前回調査分

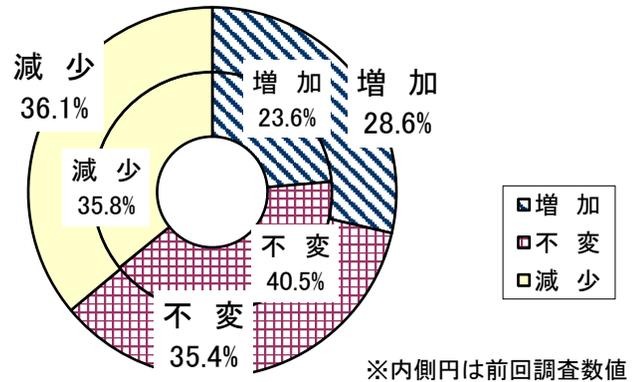
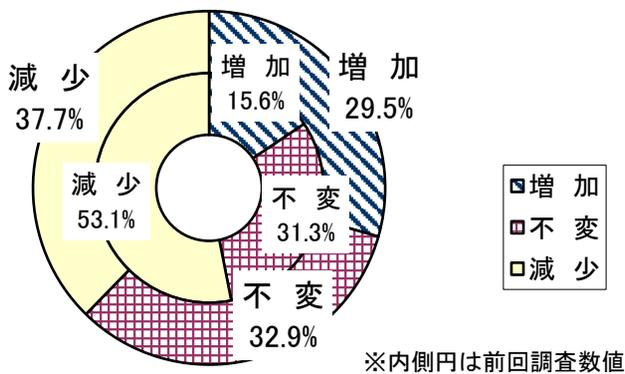
	増加	不変	減少	DI	前回DI	変化	全国DI	
業	建設業	17.6	23.5	58.8	-41.2	-55.6	14.4	-24.3
	総合・土木	20.0	10.0	70.0	-50.0	-45.5	-4.5	-
	建築・職別工事	14.3	42.9	42.9	-28.6	-71.4	42.8	-
	製造業	32.4	23.5	44.1	-11.8	2.9	-14.7	-13.6
	銅器・漆器	21.4	14.3	64.3	-42.9	-42.9	0.0	-
	アルミ・機械・化学・電気	34.2	26.3	39.5	-5.3	23.7	-29.0	-
	食品・繊維・紙・他	28.6	28.6	42.9	-14.3	-18.8	4.5	-
	卸売業	33.3	29.6	33.3	0.0	9.1	-9.1	-22.9
	銅器・漆器	20.0	20.0	60.0	-40.0	-40.0	0.0	-
	その他	33.3	33.3	28.6	4.8	18.8	-14.0	-
種	小売業	31.3	31.3	37.5	-6.3	-42.1	35.9	-42.0
	食品・衣料・雑貨	40.0	20.0	40.0	0.0	-71.4	71.4	-
	電化製品・文化品・他	27.3	36.4	36.4	-9.1	-25.0	15.9	-
	サービス業	33.3	38.1	28.6	4.8	-5.0	9.8	-38.9
	全産業	31.1	27.7	41.2	-10.1	-10.1	0.0	-30.6





■ 2-1. 売上高の対前期比

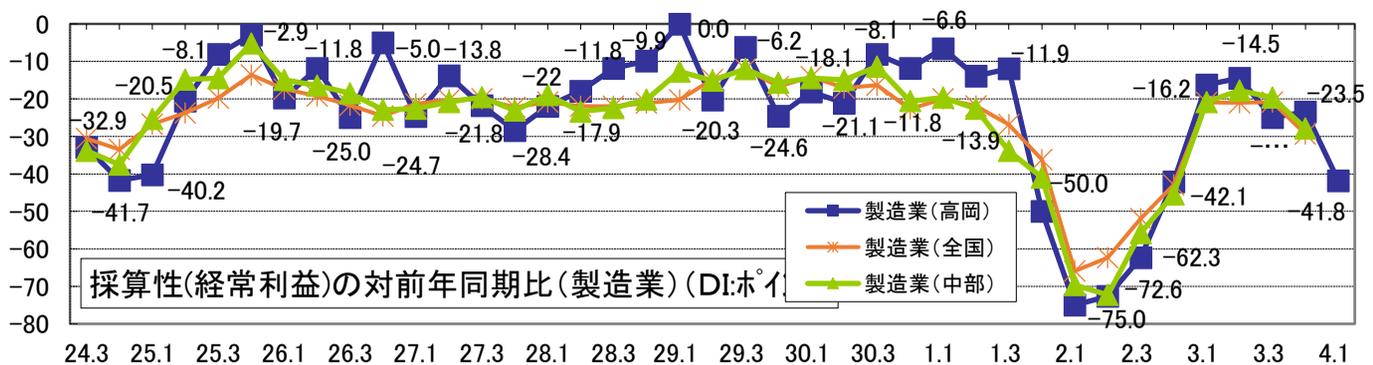
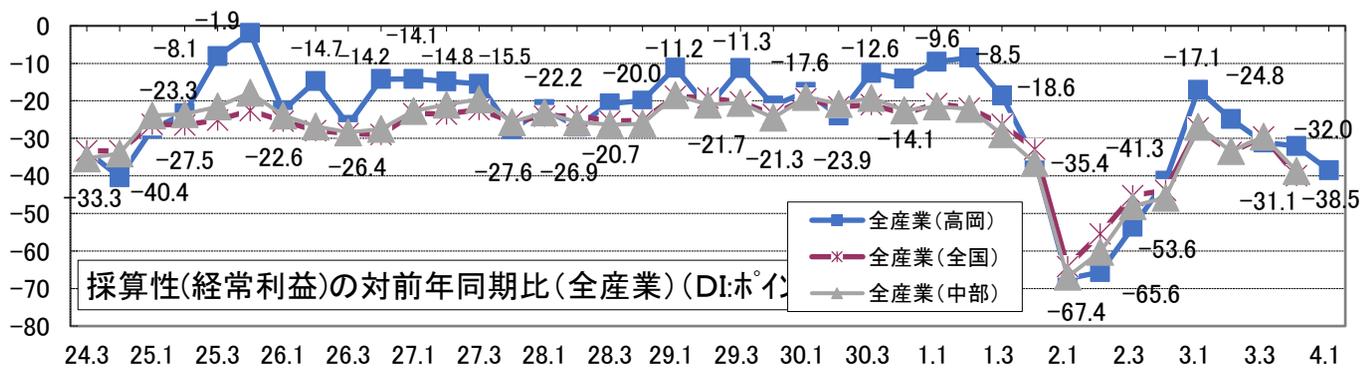
■ 2-2. 売上高の来期見通し(対前年同期比)



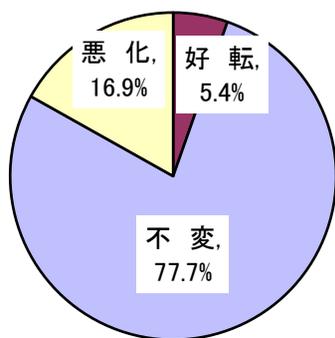
■ 3. 採算性(経常利益)の対前年同期比 (%) (ポイント)

※全国DIは前回調査分

業種		採算性			DI	前回DI	変化	全国DI
		好転	不変	悪化				
業種	建設業	5.9	47.1	47.1	-41.2	-44.4	3.2	-34.6
	製造業	14.9	28.4	56.7	-41.8	-23.5	-18.3	-29.4
	卸売業	11.1	48.1	40.7	-29.6	-27.3	-2.3	-27.0
	小売業	0.0	37.5	62.5	-62.5	-57.9	-4.6	-49.9
	サービス業	14.3	52.4	33.3	-19.0	-30.0	11.0	-44.7
	全産業	11.5	38.5	50.0	-38.5	-32.0	-6.5	-39.9



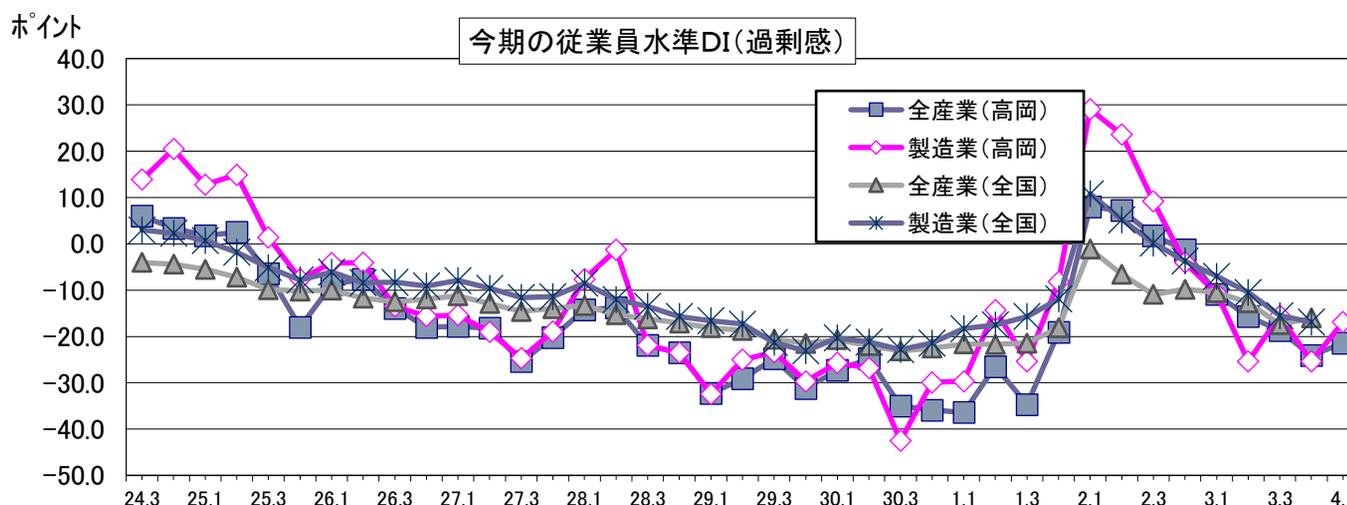
■ 4. 資金繰り(前年同期比)



資金繰り(前年同期比)の推移

	好転	悪化	DI
4.1	5.4%	16.9%	-11.5
3.4	2.7%	21.2%	-18.5
3.3	6.7%	18.0%	-11.3
3.2	11.3%	19.4%	-8.1
3.1	12.7%	11.5%	1.2
2.4	5.7%	22.9%	-17.2
2.3	5.5%	28.7%	-23.2
2.2	2.0%	29.4%	-27.5
2.1	3.4%	38.6%	-35.2

■ 5. 今期の従業員水準(今期の過剰感)



従業員水準(過剰感)の推移

(ポイント)

	R2.2	R2.3	R2.4	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	R4.1
建設業	-31.3	-37.5	-18.8	-33.3	-47.4	-52.9	-44.4	-70.6
製造業	23.6	9.2	-4.0	-10.7	-25.4	-15.5	-25.4	-16.9
卸売業	0.0	20.0	14.8	10.7	16.7	-3.8	0.0	-7.4
小売業	5.6	-11.8	5.9	-15.8	5.6	-13.3	-11.1	-13.3
サービス業	-10.0	-7.7	-4.3	-16.0	-20.0	-23.8	-40.0	-19.0
全産業	7.2	1.8	-1.3	-10.9	-15.7	-18.7	-24.1	-21.4

※数字が小さいほど不足感が強い

■ 6. 直面している経営上の問題(各業種の回答上位)

複数回答

建設業	①材料価格の上昇	29.8%
	②従業員の確保難	14.9%
	②民間需要の停滞	14.9%
製造業	①原材料価格の上昇	26.3%
	②需要の停滞	12.8%
	③従業員の確保難	11.2%
卸売業	①仕入単価の上昇	26.7%
	②需要の停滞	17.3%
	③人件費以外の経費の増加	12.0%
小売業	①需要の停滞	20.5%
	②消費者ニーズの変化への対応	15.9%
	③仕入単価の上昇	13.6%
サービス業	①利用者ニーズの変化への対応	13.5%
	①店舗施設の狭隘・老朽化	13.5%
	①材料等仕入単価の上昇	13.5%